

03 令和2年度川崎市都市農業活性化 農商工等連携モデル事業をご報告します

モデル事業は農業者と多様な主体が連携を図ることで新たな農業価値を創造して連携を先導し、市内農業者に連携が波及することで市内産農産物の付加価値向上・農作業の効率化・地域の活性化等を図ることを目的に実施しています。令和2年度は以下の3つのモデル事業を実施しました！

動画を使った川崎農家のブランディング

モデル事業者 一三 (末吉 理氏)



取組内容 「かわさき野菜」の付加価値向上のために様々な取組を行っている方々取材し、動画でプロモーションをして川崎都市農業の更なる認知度向上に寄与しました！

作品数
全15本

今まで認知されていなかった若年層を中心にアプローチするため、YouTubeを活用！

今後の展開 限定された地域の動画を広く見てもらうためのアプローチ方法や、大変な映像制作を長く続けていくための方法を模索します。



▲ 焚火トーク撮影風景



▲ 農家めし撮影風景

出演者からは

- ・ 農業者の自己紹介ツールになる
- ・ 野菜ができる過程も紹介できる
- ・ これからも活用できそう

管理栄養士のヘルシー・おいしいレシピで農家さんと食卓を箸渡し

モデル事業者 株式会社 E フィットウィル (藤井 紀美子氏)



取組内容 かわさき野菜の美味しさを消費者に伝えるために、直売所などで配布したりPOPとして利用したりできる管理栄養士監修のレシピを作成しました！

QRコードからPCやスマートフォンでレシピを見ることができます。

WEB サイトでは



旬野菜の情報や保存方法、川崎の農業者紹介を掲載！レシピをダウンロードして農業者が自由に販売に利用できます！



今後の展開

実際にこのレシピを販売に利用した農業者からはコミュニケーションツールになったとの声を頂いています。今後はコラボレーションする農業者を増やしながら、事業費の支援がなくても継続できる方法を検討していきます。

剪定枝活用「農商工+学」連携の商品開発～エシカルでサステナブルな農業を～

モデル事業者 株式会社 CarnaEst (山田 貢氏)



取組内容 処理の際に課題を持つ、果樹栽培などで発生する“剪定枝”を活用した「サステナブルな食器」の開発に向けて農・商・工・学で連携して検討を進めました！

JA セレサ川崎



剪定枝をチップパー機で処理

(株)ユニオン産業



バイオプラスチックをペレット化

和光大学



食器のデザイン制作

課題とは？

- ① 野焼きに対する苦情
- ② 剪定枝の処分費
- ③ 設備投資による経費圧迫など

今後の展開 かわさき野菜を扱う飲食店や保育園に寄付し、使用感や感想等を伺って、今後の開発に活かしていく予定です。また、市内農業者とも連携して川崎市独自の地域資源の循環モデルを目指します。

かわさき都市農業活性化 コト・モノ・ヒト News

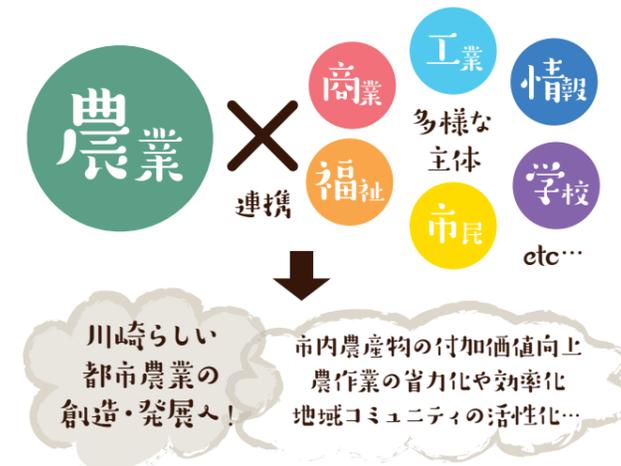
川崎市農商工等連携推進事業



発行：川崎市農業振興課

川崎市では、生産者と消費者の距離が近いというメリットを生かした営農や、農地の持つ多面的な機能を生かしたまちづくりが積極的に行われています。一方で、都市化の圧力や相続を契機とした農地の減少、農産物価格の低迷、担い手の減少や高齢化などの農業に関する様々な課題もあります。

これらのメリットや課題を踏まえ、農業者が、商業・工業者など、多様な主体と連携することにより都市農業の可能性をさらに広げることが目的に、平成28年度から「都市農業活性化連携フォーラム」、「モデル事業」を実施しています。



01 第8回かわさき都市農業活性化連携フォーラムを開催しました

令和3年1月18日(月)に川崎市都市農業振興センターにて「第8回かわさき都市農業活性化連携フォーラム」を開催しました。今年度のフォーラムは新型コロナウイルス感染症対策のため、出席いただく方を農業者の皆さまに限定させていただき、交流しやすい少人数でのセミナーやワークショップを開催しました。ここでは当日の様子をご紹介します。

フォーラムプログラム

第1部 全体会

■ ゲストトーク (セミナー)

株式会社農天気 小野淳氏
「都市農業の価値向上に向けて～多様な都市農業経営の事例を通して～」

■ 今年度モデル事業の発表 本誌 03 参照

- ① 動画を使った川崎農家のブランディング
- ② 管理栄養士のヘルシー・おいしいレシピで農家さんと食卓を箸渡し
- ③ 剪定枝活用「農商工+学」連携の商品開発
～エシカルでサステナブルな農業を～

第2部 ワークショップ

■ 農業者向けワークショップ (意見交換会)

- ① 都市農業の価値向上や都市農業経営
- ② 動画を活用した都市農業のPR



お問合せ

川崎市 経済労働局 都市農業振興センター 農業振興課 農政係
住所：〒213-0015 川崎市高津区梶ヶ谷 2-1-7 JA セレサ梶ヶ谷ビル 2 階
TEL 044-860-2462 FAX：044-860-2464

02 第8回かわさき都市農業活性化連携フォーラムの開催まで報告します

ゲストトーク

今回は過去のアンケートをもとに、農業者の新しい取組や話題性の高い取組を紹介するため、東京都国立市を拠点に都市農業を活用した様々な活動をされている株式会社 農天氣の小野淳氏をゲストにお招きしました！

■ 都市農業の価値向上に向けて ～様々な都市農業経営の事例を通して～

事業内容

「農の未来をもっと面白く」を目標に、「農を知る（発信事業）・農にふれる（農業体験事業）・農のある暮らし（農ライフ事業）」という段階的に農との関わりが濃くなっていくアプローチで、株式会社農天氣の活動を行っています。また、平行して『NPO 法人くにたち農園の会』や『くにたちはたけんぼ』、認定こども園やゲストハウスなどの事業も展開しています。

私の考え方

都市農業は「食・結・学・癒・遊・美」の6つの価値があり、それぞれの価値を最大化していく必要があります。例えば、コミュニティ農園などの活動を通して、ママ友・パパ友が集まり、事業がどんどん拡大して、認定こども園の実現にまで繋がりました。今後、少子化がさらに進むので、「地域資源である農業の価値」を高め、地域住民とシェアしながら、子どもと一緒に多文化が共生するまちをつくりたいと思っています。



(株)農天氣 代表取締役 農夫 小野 淳氏

これから 新しい生活様式のなかで、職場との距離より、暮らしとの距離で「まち」が選ばれています。「足元の非日常体験の需要」が高まるため、今後、都市農業の需要もさらに増えていくでしょう。

■ インタビュー形式による質疑応答（対談）

Q. 様々な取組の参加者が「農」に対して意識は変化したか。

A. 参加者の属性は様々だが、農に触れるきっかけがあることでリピーターが増えている。子どもにとって忘れられない体験を提供することも大切である。

Q. 川崎市で農業に関わる皆さんへメッセージを。

A. 私は国立市で農地を借りて取組を進めているが、都市に農地がある（所有している）ことは、非常に可能性があるということ。農家の皆さんや色々な分野の方が連携して、都市農業を発展させてほしい。



全体講評

明治大学農学部長の竹本田持氏より



「小野氏は地域の消防団に入団する等、農業以外でも地域にしっかり貢献されている」「小野氏自身が農業に限らず様々なアンテナを張り、そのアンテナが様々なつながりやアイデアを生み出している」

「モデル事業はそれぞれの事業が農業者と様々な業種を結んでいるが、自立性と波及性が大切であり、今後は特に自立性を伸ばすことが重要」

「今後農業は、経済だけでなく社会的メリットもあるため、昨今の情勢を機会に見つめ直す必要がある」と総評をいただきました。

ワークショップ

ゲストスピーカーの小野氏の取組と、事前に実施した農業者アンケートにて関心度の高かった「動画でのアプローチ」の2つを題材に、ワークショップ（意見交換会）を実施しました。出席いただいた農業者の皆さまにはどちらかのブースに参加いただき、活発な意見交換となりました！

■ 都市農業の価値向上や都市農業経営

講師：株式会社農天氣 小野 淳氏

Q. 農作物の付加価値をつける良い方法はあるか。

A. 実践している事のひとつとして、**人とのつながりを感じさせること**。自身の思い入れを付加価値にして、差別化を図ることができる。また、鮮度は一番の付加価値である。野菜は「流通させればさせるほど鮮度が下がる」という事を考えると、消費者の近場で生産している都市農業のメリットを活かし、**鮮度を付加価値として高く販売することや直売方法を編み出す事も可能である。**

Q. 民家の隣に畑があると、虫やにおいなどの苦情がくることがあるが、どのような対策をしているか。

A. 都市住民に隣に畑があつて良かったと思ってもらえることが重要である。我々も田んぼの隣に民家が建つことが決まったが、農薬やほこりを出さなくても、早朝や休日にイベントを開催すれば、騒音などの苦情に繋がるかもしれない。しかし、子育て支援を例とすると、自分の子どもが隣の畑で収穫作業をすれば、都市農業への理解をいただくことができる。



■ 動画を活用した都市農業のPR

講師：一二三 末吉 理氏

Q. 「農業者」を動画で発信したことにより、何か反響はあったか。

A. 自分自身は農家さんの実態を間近で感じる事ができた。また、撮影をしているうちに**地域の新しい魅力を知ることができた。**

Q. 出演している農業者の反応はどうか。

A. (出演者の「畑から台所へ」のメンバーより) 農家の生活スタイルは、「朝畑に行き、終わったら家に帰り、そのあと直売に行くこと」がルーティンとなっているが、今回のようなお誘いが無ければ普段とは違う活動をする事は無かった。

Q. 動画でのアプローチについて、本日ご参加いただいている農業者の皆様はどう思ったか。

A. 後継者不足が課題となっている農業において、多数の人が閲覧できるYouTubeを活用して魅力を発信することは、**良い刺激になる**と思った。

A. 子どもに人気の職業にユーチューバーも入っていることから、**子どもが農業に取り組みたくなる動画**を発信できるとより有効だと思った。

A. 農業だけでなく**地域の付加価値向上**にもつながると思った。



お知らせ

■ 当日の様子も期間限定で配信中！

令和3年1月に開催した「第8回かわさき都市農業活性化連携フォーラム」の様子を3月末までの期間限定で **YouTube** にアップしました！

当日お越しになれなかった方はもちろん、多くの皆さまにご覧いただければと思います！

第8回かわさき都市農業活性化連携フォーラム **YouTube** 検索

■ Facebook 随時更新中！

令和2年8月に開設した Facebook は現在も公開・更新中です！モデル事業者の最新情報や過去のモデル事業者の最新情報を公開しています。

